令和元年度（2019 年度）三重県商工会議所連合会
第 2 回会頭会議を開催
～　R01.9.29　松阪フレックスホテル　～

三重県商工会議所連合会（会長：岡本直之）は、令和元年 9 月 29 日（日）フレックスホテル（松阪市）にて、県内各商工会議所会頭及び専務理事等の出席をいただき、会頭会議を開催しました。

▲挨拶をする岡本会長

岡本会長は冒頭の挨拶の中で、県連役員任期が 10 月で満期となり、現体制で集まる機会も最後と触れ、9 月 9 日に実施した知事要望の中から「地方創生を加速するため、リニア中央新幹線の三重・奈良ルートの早期開業、リニア時代を見据えたビックプロジェクトの検討について知事に要望した」と報告し、「経済界として情報を収集しながら勉強していく必要がある」と述べました。また、三重県の人口減少問題にも触れ、「若者の転出超過が続き、社会減対策が重要で、若者に選ばれ、住み続けてもらうため、行政、企業、地域が一体となって考える必要がある」と述べました。

▲会頭会議の様子

会議では、岡本会長が三重県商工会議所連合会の活動の３年間を振返り、県連・商工会議所の連携強化（会頭会議等）、関係機関との連携（提言・要望活動、事業協力、日商・東海連会議等）、海外ミッションを中心に報告しました。

松阪商工会議所の谷川会頭から、「松阪商工会議所　豪商スピリット宣言について」の経緯と現代の企業活動に必要な豪商スピリット（社会から信頼を得ることを何より大切する精神等）の考え方についての話と商工会議所活動における女性活躍推進について、松阪商工会議所における女性副会頭を選任した経緯などの紹介がありました。

その後、埼玉大学　教授　石阪督規氏から「地方創生と『人財』育成～地域を変える官民学連携の試み～」と題して、地方創生の必要性、人口減少社会が経済社会に与える影響、持続可能な地域経済社会など講話を拝聴しました。

会議終了後は、懇親会を開催し、終始和やかな雰囲気のなか情報交換等を行い、大変有意義な会となりました。

▲埼玉大学　石阪教授

▲谷川会頭（松阪）